

## 〔麦 類〕

### 1. 作付の概況

九州地域における平成24年産の麦類の作付面積は55,410ha で、前年と比べて370ha減少した。麦種別では、小麦が33,700ha、二条大麦が20,000ha、裸麦が1,710ha で、前年に比べて小麦は900ha減少、二条大麦は700ha増加、裸麦は170ha減少した。全国の作付面積に占める九州地域の割合は、小麦が16.1%、二条大麦が52.2%、裸麦が33.4%であった。

県別では、小麦は福岡、佐賀、長崎、大分、鹿児島で減少した。二条大麦は、熊本、大分、宮崎を除く各県で増加した。裸麦も、佐賀と鹿児島を除く各県で減少した。

### 2. 生育概況

11月中旬以降気温が高くて降雨が多く、播種期間の大雨で出芽が悪かったり、播種が遅れたところがあった。12月中旬以降2月中旬までは低温に推移し、生育が遅れ、茎数は少なかった。その後4月上旬まで気温は平年並み、4月中旬以降はやや高めに推移し、平年と比べて出穂期は5～7日程度遅く、成熟期は2～4日程度遅かった。5月上旬以降は晴天となり、倒伏はほぼ発生せず登熟は良好で、収穫も順調に進み外観品質も良好であった。しかしながら、茎数が少なかったため穂数の確保が不十分で収量も低かった。

### 3. 作柄の概況

九州全体の10aあたり平均収量（過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均）対比は、小麦で85、二条大麦で82、裸麦で82といずれも低かった。また、各県の10aあたり平均収量対比は、小麦は宮崎県の65が最も低く65～86（沖縄を除く）、二条大麦も大分県の63が最も低く63～90、裸麦は77～100と、いずれの県、麦種でも一昨年、昨年に続き作柄は悪かった。

（九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域 上席研究員 藤田雅也）